

社格
所在

今按式社攷證に此神は本郡八丈島總鎮守二座の内古寶明神なるべし其は三宅記にいなはえの后に添て五郎王子と云御子を置給ふ由見えたる此神と聞ゆるが式に漏べき所謂なく現今社の立る大賀郷の西方山野に涉り廣く古志伎と云處有て縁故ある地名なるが古く此邊に御社ありて負せたる神稱なるべく聞ゆるを以て也亦古寶明神の稱を按に舊は古敷また古布など書しを訛りてこはうと唱へたるより古寶の文字を當たるならんとみえ又同郡加増野村より小杉原村へ越る山路にこしき峠と云有を先輩往々當社にあてたり小杉原の稱もこしき原の轉と聞ゆれば縁故なきに非ず亦三宅島東南隅にミコシキと云處有て此にみこしき明神と云小祠あるも所縁ありと云るが中に古敷を古寶と書しならんとあるは信がたけれど此古寶明神鎮座の村中に崇福寺と云ありて山號を飯峯山と稱するも古志伎の地名あるも由あれば八丈島總鎮守古寶明神の方據あるに似たり姑附て攷に備ふ

多祁伊志豆伎命神社

祭神
社格

所在

今按式社攷證に神階帳從四位上たけしの明神と有り此社未定加茂郡本郷村高馬鎮座八幡社ならんか此社は豆志に竹麻神社三坐の内として云一座在本郷村高馬今八幡と稱す云々とありて所由有社と聞ゆるが舊社地は今の社後岩壁上にて舊蹟ものこりたるが伊志豆伎の稱に適ひ高馬の稱のタケシに近く通ひて聞ゆる所縁あるを以て也亦同郡見高村見高明神ならむか豆志に云見高明神村見高寛文二年上梁文に云光仁天皇天應三年三島より奉遷大山祇命也本社二とみえ社記に熟考人皇四十五代聖武天皇天平五癸酉年三島大明神始興洲現所謂大山祇命也云々とある如く由ある神と聞ゆるが何の所見なしと雖此社にやと思はれ神階帳にたけしの明神とあるたけし則多祁伊志の約にて地名となりしと思はるゝにこの見高の稱の近くかよひて縁由ありけに聞ゆれば也又同郡一色村に三島明神あり村稱の一色伊志郡伎に通ひて聞ゆるは據あらむも知べからず又同郡青野村三島神の妹也と然らば二社共に必式内なるべし云々と見え社傳に祭神石突命と傳へて所由ありて聞ゆれば云がたし姑附て後考を俟つ

久爾都比咩命神社

祭神
久爾都比咩命

今按此神は三宅記に三島大神島々に后神を置玉ふ事を記して新島に置給ふ后をばみちのくちの御門の太后とぞ申けるとみえて三島大神の后神にます事明か也さてみちのくちのクチは久爾都と音相近きを以て同神なること知られたり式社攷證に久爾都は地名より起りたる稱と聞ゆるが後に訛りて久知となり久知の御門などの稱は起りたるかと思はれ亦此社地は所謂泊とも御門とも云小邊なるが奇巖左右に壁立して海は甚狹窄なるより口津の意にて久知とも久爾津とも通はし云るには非じかと云るも由あり附て後考に備ふ

祭日 四月八月十一月十八日

社格 (無格社)

所在 (伊豆國新島屬式根島) 新島之内式根島

伊波乃比咩命神社

今按此神は三宅記に嫡女をば伊豆郷にいがいと云處に置まるらせ給ふ云々次の后をばつほたの郷に置給ふ云々三人めはかめつきの郷に置給ふとみえたるつほたの后即伊波乃比咩命なるべし其は式社攷證にいがの后は伊賀牟比賣命に坐かめつきの后は佐伎多麻比咩命に坐こと明かなるが坪田后の式に漏べき謂れ無く決めて伊波乃比咩命なるべく思はるゝに付て島々諸社を點檢するに此比咩

伊豆國 賀茂郡

命の坪田后より外に思合べき社なく此神今は二宮と云に合祀であれど舊社地は今の地より二十町許村北神戸と云處の石室也と聞ゆるが此石室に鎮座せるより伊波乃比咩命と稱へ奉れることと思はると云る由縁ありて聞ゆれば也而るを伊豆志に當郡雲見村に淺間祠あり御嶽山の嶺にます式社なりと云傳ふ磐長姫を祀る故に此山にて駿州淺間のことを云ことを忌其妹間耶姫と陳あるが故なりと云るによりて玉禰に伊波乃比咩命神社の祭神を磐長姫と定め云る也誤りなること上に云る説にて辨ふべし

祭日

社格 (村社)

所在 (伊豆國三宅島坪田村宇小倉山) 三宅島坪田村

杉梓別命神社

今按この神を五十猛命と云説あるは木宮と云よりの謬なるべし式社攷證に木野と云は地名にして古く社邊を木野とも云たる由物に見えれば木野明神と唱へ遂に木宮と唱ふる事となりたるなれば只杉梓別命はこわけの明神と云神と心得て妨あるべからずと云る謬か也思ふにこも三島神の御子なるべし

祭日

社格 郷社